

第26期 国立市社会教育委員の会（第7回定例会）会議要旨

令和7年11月26日（水）

[参加者] 内田、寺澤、堀、荒井、横山、根岸、田代、大森、松塚、生島

[事務局] 井田、楠本、関

生島議長 それでは時間になりましたので、第26期国立市社会教育委員の会の第7回定例会を開会いたします。

本日は、寺澤委員が御欠席？ 連絡はないので、もうじきお見えになるかと思いますけれども、御欠席の連絡はいただいておりません。いずれにしても定例数に達しておりますので、本日の会議を始めさせていただきたいと思います。

それでは、まず、本日の配付資料につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局です。

本日の資料について御説明させていただきます。まず、皆様から見て左側の山について御説明させていただきます。1枚目が次第となりまして、2枚目が資料1、要望書となっています。資料2が、タイトルが長いので、ヒアリングについて説明資料になっております。資料3が子育て短歌入門講座についてです。続きまして資料4はシルバー学習室について。資料5が令和7年都市社連協の交流会、研修会についてということです。

続きまして右側の山について、こちらは第6回、前回議事録となっております。続きまして公民館だより、図書室月報、「いんふおめーしょん」となっております。

資料の説明は以上となります。

生島議長 ありがとうございました。

次第に入る前に、本日は資料1としまして要望書が出ています。今後の会議の運営にも関わる内容になりますので、先に事務局から内容の説明をお願いいたします。

事務局 事務局です。

資料1を御覧ください。資料、一応、社会教育委員の議長宛に要望書が出ております。提出日は2025年11月14日です。要望書のタイトルは、「強引・乱暴な会の運営はしないでください」という要望となっており、項目だけ読ませていただきます。

1番、強引に議長提案でまとめるのは専制政治と同じです。

2番、世代間交流は、国立市民が求めている社会教育のテーマとは思えません。

こちらの大きく2つの項目で成り立っている要望書となります。

説明は以上です。

生島議長 ありがとうございました。

要望書につきましては、委員の皆さん方に事前に配付しております。要望書

について御質問や御意見等はございますでしょうか。

少し今までの定例会を振り返りますと、ライフステージに応じた学習機会、とりわけ諮問理由書にあるような、ライフステージの変化の大きい世代に着目した学びの機会について、実際の学習者の方の声を伺っていくようなヒアリングをしていこう、そういうような提案を前回させていただきました。そして、それを基に、皆さんとともに議論をさせていただきました。

私、議長のほうから提案させていただいた目的としましては、やはり2年間という限られた期間の中で、この先の議論の方向性を見いだすというようなことも必要であったわけですが、この要望書の御指摘も受け止めて、私としましては、委員の皆さん方から、ぜひ多くの意見をお出し下さいまして、そうした意見を踏まえて結論を出していくということに改めて努めてまいりたいと思っております。皆様方におかれましては、これからもぜひ様々な御意見をお出しいただきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

前回の定例会の議論を振り返りますと、子育てとか、または高齢期といった、一般的なライフステージの学習者の方へのヒアリングを実施するという点につきましては、おおむね委員の皆さん方と共に通した認識が持てた、確認できたのではないかと考えております。一方で、前回の資料ですと、Bというところがありましたけれども、多様な世代がともに学ぶ講座のヒアリングについては様々な御意見が出ていたものでしたので、まずは子育てや高齢期の学習機会である子育て短歌入門講座と、それからシルバー学習室についてのヒアリングを行ってみて、その後、多様な世代がともに学ぶ講座についても情報収集をしていきながら、今後ヒアリング等を実施していくかどうか、皆さん方の意見を改めて伺っていきたいと思っています。

何か御意見、御質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

荒井委員お願いいたします。

荒井委員 この国立公民館だよりもありますが、国立市の公民館は70周年のイベントを10月の下旬から11月にかけて行ってきました。それで私も全てではないですが参加して、やっぱり今とか過去に公民館に関わった方たちを招いて、その方のリレートークというか、そういうお話を伺うというのが結構あったんです。今も継続して、この年度末まで、公民館の利用者である方たちにヒアリングとかというのを継続しているところです。11月2日のイベントだったと思うんですけど、そこで一般の方とかも来ていて、ふだんあまり公民館になじみのない方から、公民館というと、子育て世代と退職者というのが来るイメージだったとおっしゃって、やっぱり今もそう思われていて、まさしくヒアリングしようとしている人たちがそうなんだなと私は思って、このヒアリング対象でいいのだろうかというのはイベントの中で考えていたことです。

あと、取材がしやすいというか、作品があるというか、記録があるという人たちの、子育て短歌とか、作品があったり、シルバー学習室の人も何か残しているものがあるので、取材がしやすいということもあるんでしょうけど、成果物があるところに絞って取材をする、ヒアリングをするのは、そういうのが残らない人たち、残せない人たちとかを残していくことになるんじゃないかなという危惧をちょっと感じているところです。

生島議長 ありがとうございました。

この後、要望書についての御意見もありつつ、この間感じたことということとで、この後の議論にもちょっとつながるかなとは思いますので、ちょっとそこも含めてお話ししたいと思いますけれども、一旦じゃあ、この要望書についてはよろしいでしょうか。その後、またこの後の進め方にも関わるかと思いますので。荒井委員の御意見につきましては。

堀委員 要望書で私が一番、本当はそうだなと思ったのは、1枚目の「例えば……」のところ。3つ目の段落です。「子育て世代の学習内容として子育てに関わることではなぜいけないのか」ということが書かれています。これ以降、そのことについて文章が展開されているわけではないですが、それは私も少し思っていたことなので気になりました。

というのは、シルバー世代であろうが、子育て世代であろうが、別の世代であろうが、教室で座学する、知識を獲得していくというようなことを生涯学習の中心として考えていくのだろうか？そうではなくて、生活実践そのものの中で学んでいくというか、生活の中でいろんなことを発見していくことに注目するというような視点は、結構大事なことではないかと考えているのですから。ヒアリングが簡単にできるとか調査がやりやすいかとかを抜きにして言えば、生活の中で、それに真面目に向き合うことで学び獲得していくことが本当は大事なことだと思っているところがあります。

会議の最初の頃に寺澤委員が、出産から子育てのステージに入ると、あまりほかのことはできなくなるが、その中で発見することがむしろたくさんある。実は、そのことがすごく大事なことではないかと言われた。私もそういうことが、学生ではない生活者としての学び、人生の中での学びではないのかという感じがします。そのへんをどう扱うのか気になりながら、まとめ方としては、調査しやすいためには調査対象に成果物があるかとか、どちらかというと講座物みたいなものに 관심が移ってしまった。役所がやる事業というより、役所がやる講座みたいな方に話が絞られていくようで、ちょっとそこは気になったものですから。

前回は欠席でしたが、寺澤さんが出席していたら何と言われるかと思っていました。要望書にはそれ以上の展開は何も書かれてないのですが、ちょっと気になりました。

もう一つは、先の話ですが、今回の諮問は一体どうまとめていくのだろう、どう絞っていくのだろうということには、非常に戸惑っています。委員全体で一つの提案にまとめていくことができるのだろうか。委員おのおのが作文して併記するみたいな形でしかあり得ないのではないかという感じもします。そんなことも思いながら、答申までの2年間のスケジュール管理もあるだろうから、ともかく実践に突っ込んでいくしか仕方がないだろう。ともかくヒアリングに入っていきながら、これだけでは駄目だから別の展開もしてみようと考え直すこともあるのではないかという感じがして、前回は了解しました。

提案されたヒアリングをやってみて、その先に進んで行けばいいのかなというのが私の今の立場です。以上です。

生島議長 ありがとうございます。

前回の、今、寺澤委員がいらっしゃらなかつたというお話もありながら、もしこの要望書について、御意見がこれ以上ないようであれば、次の議題にも入

つていきながら、今のお2人の御意見も、前回も含めて振り返っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、一旦ここで、これについては区切らせていただいて、今日の本題であります、ライフステージに応じた学習機会の充実の方策、答申に向けての進め方に入りていきたいと思います。今、この間話題になっておりますとおり、前回の点を踏まえて、これからヒアリングについて話を詰めていこうとしていたところですけれども、今お2人の御意見がありましたので、もう一回確認を、振り返りをしようかなと思います。

今、堀委員が最後にお話しいただいたことが、実は本丸にあるというところなんですけれども、答申をまとめていくとしても、どうやってまとめていくか。今ここで少し話をしていても、どうしても空中戦になつたりだとか、実態が見えない状態のまま、雲をつかむような話というのがあったり、それぞれ皆さん、委員の皆さん方の中で共通の世界が持てていないなというところもありますので、まずは、ライフステージに応じた学習機会というところで、どんなふうに学習がされているか、オーソドックスなところについてヒアリングをさせていただこうじゃないかというようなのが、前回の提案の大きな筋だと思います。そのつもりで御提案させていただきました。

そういう意味で、荒井委員が、公民館の活動であると、本当に高齢期と子育て期というのがオーソドックスで、そういう見られ方もしていて、本当にそれでいいのかなというところで、今回のヒアリングが、本当にそれでいいのかなと疑問に思われたということだったんですけれども、そこから実際、知つてみて、このヒアリングはここで終わりじゃないので、こういうことであれば、また次に、じゃあこんなところに聞いてみようじゃないかというようなことの展開もあるうかと思います。そういう意味での、少し時間も残しながら進めていきたいところもあって、前回、少し具体的な提案になりました。

それからもう一つ、堀委員から今お話しいただいた、座学であつたり、または、話が、いろいろ筋があるかと思うんですけれども、座学中心のものになっているのではないかというのと、もう一つ、要望書にあるような、子育て世代の内容が子育てに関わることでなぜいけないかについて、御自身も疑問を持たれていたというようなことだったかと思うのですが、ここについては、今回対象となっているものとはずれがあるかなと思います。

1つは、子育て世代の内容として、子育てに関わることがいけないと。こういう文脈が出てきたのは何かというと、恐らく矢川プラスでやっている事業のときに、そういうような話になったんじゃないかと思うんです。それは子育てに関わることだからいけないというんじゃなくて、単発の講座、子育てに関わる単発の講座であつて、そこで様々な、具体的な学習があるんだけれども、ここでライフステージに応じた学習機会をどう充実化させていくかといったときに、もう少し継続的な、また組織的な活動の展開が見られるようなものがいいのではないかということで話が出たかと思います。

そういう意味では、今回、2つの講座についても、注目しているわけですけれども、この2つの講座も、単発で、座学で聞いているだけというのではなくて、そこから創作活動があつたり、または講座を経て、その後グループになつていく、そういうプロセスのあるものとして選んできているわけです。ですので実際に今回ヒアリングをさせていただこうとしていく対象の方も、実際には講座には参加されていた方だけれども、その後、講座を経てグループの活動を

されているというところで予定をしていこうと思っておりました。

そういうようなところでいたのが前回の話、議論だったかなと思っております。そういう話のつもりでしたところだと思うんですけども、この件に、そうじやなかつたんじやないかとか、ちょっと違うんじやないか、または、何かほかに御意見がありましたらお出しいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

堀委員、お願ひいたします。

堀委員 荒井委員が言われた、シルバー世代と子育て世代のことは現在の公民館事業の主要なテーマになっており、この諮問が「またか」みたいな感じを持たれるのではないかという危惧は、私もそういう感じはします。しかしそれは諮問そのものが、冒頭には「ライフステージの各ステージにおける……」と始まりながら、変化が大きいところでと、具体的にはシルバー世代、子育て世代と例示しているので、それはそう扱わないと仕方がない。それが今期の委員に課せられたことなのではないかという感じがします。

あとは、提案に従ってヒアリングしていくが、そこから何が得られるかについては、ヒアリングする中で、これだけでは済まないなという話になっていけばいいかなと思う。先ほど言いましたが、子育て世代が対象ではあるが、その世代がどういう表現活動をしているかとか、シルバー世代が対象でも、その世代がどういう趣味生活を学んでいるかという対象の選び方は、その世代の課題をどう捉えるかというようなことから言うと、何かちょっと狭いなという感じがする。公民館のこの講座自体を批評しているわけでは全然ないですが。でもヒアリング先としては、ちょっと違う展開もあり得るのではないかという感じはしています。

講座紹介の内容を読んでいると、これは本当にすごく先の話なのですが、「シルバー（世代）入門」とか、「出産・子育て（世代）入門」というような総合講座を展開する必要があるのではないかというような提案が、私が出すのだったら答申の一つの仕方かなという感じがします。話題になる世代に向けて現在行われている講座をピックアップしてみて、ヒアリング先がこれになるというのもったいないな、みたいな。

生島議長 ありがとうございます。

大変貴重な意見をいただきました。今お話しeidaita、（世代）というのにどういう意図があるかを補足していただけると、皆さんとも共有できるかなと。

堀委員 自分で口にしていて申し訳ありませんが、それを展開するのはもっと後のはうだと思います。

生島議長 分かりました。

堀委員 切り口やテーマを狭くしないと参加者を募れないこともあるのかもしれないですが、世代の問題を広く扱っているわけではない。そういう講座の作りになっている。そうすると、その世代の方の自己実現みたいなことからしても、狭いのではないかという感じがする。公民館でなくてもいいですが、役所のどこかで、その世代向けの総合講座をすることはないとどうかみたいなことを

ちょっと。

生島議長 ありがとうございます。

今後の課題という形としても、また議論のポイントとして置いておきたいと思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

田代委員 よくというか、全然理解できていないのは、アンケートを取ろうと言っていたときの前提として、何かこういう、例えば単発とか継続とか、あとはシルバーとか、子育てとかという、そういうことを中心に取るのではなくて、そういういろんなではないけれども、一つ一つアンケートを取って、そこから多様な世代でどんなものをやっていけばいいかではなくて、どういうことから、要はみんなが参加できるようになるのかみたいなことを求めるためにやるアンケートだから、それはどこでもいいんだみたいな。どこでもいいんだというのはちょっと乱暴ですけど、あまり気にしないでやっていいんじゃないかなみたいな話があったので、ああ、そうなのかなと思ったんですけど、今聞いていると、結局シルバーと子育てで絞っちゃって、そこで聞くのは、その人たちだけの話になってきちゃうみたいな話があったんですけど、最初はそうじゃなくて、そういう人から聞いたことを全体に広げるためのいろんなアンケートを取ろうかみたいな話だったような気がするんですけど、それは違うんですか。

生島議長 アンケートという話はまだ出ていない、ヒアリング……。

田代委員 ヒアリング。ごめんなさい、ヒアリングです。

生島議長 今、田代委員からお話をあったとおりのところだと思います。では、実際にどんなふうにヒアリングすることをイメージしているかという話に入ったほうが、今の田代委員の御質問というか、確認等も共有できるかなと思いましたので、資料2を御覧いただければと思います。

おっしゃるように今、子育て短歌入門講座を受講された方々、またシルバー学習者に参加されてきた方々。こうした方々が、どういう形で学習に関わるようになったのか。そういう学習者の視点を、ぜひ私たちも聞かせていただいて、参考にしていこうというイメージでいただければと思います。ですので、あくまでも講座の評価をするとどうかということではなくて、講座をとつかかりにしながら、その学習者の方々に、お伺いできるようにするというようなことがもともとのお話を思ったかと思います。田代委員おっしゃるとおりです。

ですので、今日ちょっと資料で、この後、詳細説明させていただこうと思っていましたけれども、裏面にヒアリングの実施方向に向けてというようなところでありますけれども、やっぱりライフステージにおいてどのような学習活動に参加し、どんなふうに思ったり、力になっていったか、そういうふうなことをお伺いしようというようなのが今回の趣旨として提案したし、皆さん方からも前回、御意見いただいてやってみようというようなことになったかと思っております。

ですので、実際に質問内容を事前にちょっとお知らせしておいたほうがお話しもしやすい、準備もしやすからうというようなことで、だからといってあま

り細かいことをここで挙げても、逆に話しつくくなってしまうかなと思ひますので、どんな講座で、どのようなきっかけで講座を知ったかであるとか、実際に授業に参加してみて、様々、御自身のライフステージへの向き合い方に変化を感じたかであるとか、現在、講座自体が今の生活にどんなふうに生かされているか、また生きているのか、どんな学びになっていたのか、そういうようなことを少し語っていただこうということでイメージしていたようなことかなと思います。

恐らく田代委員、そんなようなイメージで。

田代委員 そうですね。

生島議長 はい。共有できるかと思ひますが。そうしましたら、ちょっとこのことにつきまして、よろしければ説明をしながら進めさせていただきたいと思ひますが、今の段階でも何か御質問や確認しておきたいことなどがありましたら、御意見いただければと思ひますが、いかがでしょうか。

堀委員、お願ひいたします。

堀委員 2つの講座は、何年前頃から続いているのか教えてもらいたいです。

生島議長 そうしましたら、その辺のこととも含めて事務局から御説明いただくことでよろしいでしょうか。資料も準備していただいております。

事務局 では、事務局から講座の概要について御説明させていただきます。お手元の資料2を御覧ください。

まず概要ですけれども、大きく子育て短歌とシルバー学習室を分けて説明させていただきます。

最初に、子育て短歌入門講座を説明させていただきます。資料3も横に置いて見ていただきながら説明させていただけだと助かります。

参加者ですが、子育て世代に募集をかけており、実際は20代から40代が参加しております。参加者の持っているお子さんは、未就学、小学生低学年くらいまで、大体そういう方が参加しております。定員は10名となっております。託児もあります。実施日と時間は月に大体2回から3回、10月から1月、全部で9回となっております。開催されているのが金曜日の10時から12時となっております。こちらは資料3にも、大体どの日にちでやっているかとか、場所と定員、申込みというところも書かれておりますので見てください。

次、講座設立のきっかけ。近年、短歌が若い世代にはやっており、子育て×短歌で講座ができるか検討したところ、西東京市の公民館に花山周子さん、歌人の方を御紹介いただいたと公民館の職員の方から伺いました。

発表の場ですが、参加者の短歌をまとめた歌集、作品集を作成し、公民館でも閲覧可となっております。2年目以降、連作も取り組んでいます。くにたち公民館だよりなどにも掲載されております。

資料3ですけれども、こちら、3ページ目、ページは書いてないのですけれども、くにたち公民館だよりというものがホチキス留で次のページにあると思うのですが、768号というものと786号というもので、特集で、ときどき国立の公民館だよりにこちらの子育て短歌が掲載されていたので、そこを抜き出

して、今回資料とさせていただきました。

内容としては、子育て短歌についてですとか、あとは実際に参加された方の感想ですとか、そういったところが載っておりますので、御覧いただければと思います。

ちょっと前後しちゃうんですけども、すみません、この子育て短歌入門の資料3、実際にどの回でどんなことをやるかというのがチラシの2枚目、9月から1月末まで、全9回、どんなことをやっているかというのも、実際の内容も書かれておりますので、こういった形で講座に皆さん参加されているということです。

講座終了後には自主グループというものがあります。これもどういったきっかけでつくられたかというと、参加者の方から、この先も続けたいという声がきっかけになって、公民館職員から自主グループの提案を持ちかけたという流れになっております。現在9名で参加されておりまして、月1回、こちらは今、子育て短歌講座とは別に、卒業された方というか、自主グループとしては、第3金曜日の月1回、10時から12時に開催されているということです。講師の方への謝礼は参加者の方たちが支払いして運営をしているということで、講座と同様で、また作品集などにしてまとめているということになっております。

続きまして、子育て短歌についての説明です。実際のヒアリングをする方、対象となる方につきましては、資料2の裏面に(4)ということで、候補日・候補者・形式というところがありますが、その①子育て短歌入門講座のところを御覧ください。こちらは今回、ヒアリング対象者の候補の方について公民館に尋ねたところ、実際に、今話していた自主グループの方たちを対象にしようかということで御提案いただいております。その方たちが、現在9名と聞いておりますが、毎回、毎月、全員出られるわけではないので、大体四、五名くらいが、自主グループの当日ヒアリングにご参加いただけるのではないかということです。

候補日としては、第3金曜日に開催しているということなので、次回の開催に、よかつたらそちらでヒアリングをということでご提案いただいておりますので、12月19日の金曜、自主グループの講座が終了してから1時間くらいお時間をいただければと思っております。

ヒアリングの形式につきましては、実際に自主グループの方から座談会方式ですとリラックスしながらお話しできるかなというところをご提案としていただいております。希望としては、その他のところに書かれているのですけれども、事前に質問項目を教えていただけすると、答えるときに準備しやすいということで希望が出ております。もし座談会でヒアリングの後、さらに詳しく聞きたいということであれば、また別途、1月以降、個別で聞くことも可能ということはお聞きしているので、こういった形でもいいかと公民館のほうからはお話が出ております。

子育て短歌入門講座の説明は以上となります。

続けてシルバー学習室の説明に移らせていただきます。またちょっと戻るのですが、資料2の(2)シルバー学習室のところです。こちらを見るのと、あと資料4はチラシになっているのですけれども、こちらを見ながら説明させていただきます。

参加者は60歳以上の市内在住の方となっております。実際のところ、参加されている方は60代から80代の方となっております。定員が20名という

ことで、現在参加されている方、20名の方のうち、5名男性ということです。

実施日と時間ですが、毎週水曜日もしくは木曜日に行っていて、大体5月から2月の間にかけてです。全部で35回行っていて、時間は10時から12時。こちらも、資料4を今、見ていただいているのですけれども、チラシの裏面、こちらが5月から2月までのスケジュールが載っています。こんな形でいろんな講座を開講しているということです。

講座の目的なんすけれども、退職して、仕事と家の往復だったのが、地域のつながりを持ち、仲間づくりや新しいことに挑戦すること。そして主体的に学ぶ気持ちを持ってもらうということが目的ということで、公民館の職員の方がおっしゃっていました。

講座内容ですが、先ほどもちょっと予定表を見ていただいたとおり、料理だったり自然観察、水彩画、朗読、盆踊り、文章創作などです、こちらなんすけれども、好きなものを選ぶという形ではなく、これは原則、全講座参加ということで、この20名の方は全てこの講座に、年間5月から2月まで参加してもらうこととなっております。

講座が終了した後ですが、シルバー学習室を修了した者だけが参加できる心遊会という同窓会があります。こちらは11のサークル、シルバー学習室のチラシに※印でちっちゃく書かれているんですけども、心遊会とはと書かれていて、ここを読ませていただくのですが、シルバー学習室を修了した方がたちが、学習を継続しながら交流を深める同窓会。心遊友の中には、11のサークル、こういったものがあって、興味のあるサークルで自主活動をしたり心遊会が企画するイベントに参加したりすることができますという流れになっております。

こちらは現在、160名の方が参加しており、運営費の補助はなしということです。それ以外にも期ごとで同窓会なども設けているということでした。

シルバー学習室についてのヒアリングの候補日・候補者・形式ですけれども、資料2の裏面、(4)の②を御覧ください。こちらは実際に今言っていたシルバー学習室を卒業した心遊会の方から推薦の方が挙がっております。女性1名でして、心遊会に参加して2年目ということになっております。心遊会の役員も務めているそうです。こちらの方の候補日が12月17日の水曜日、午後です。時間はまだ詳しくは詰めていないのですけれども、午後ということでお願いしたいということです。

個別にヒアリングをさせていただくのですけれども、公民館職員の方も同席しても大丈夫ということで、そういった答えをいただいております。

説明は以上になります。

生島議長 ありがとうございます。

堀委員 追加でいいですか。

生島議長 堀委員、お願ひいたします。

堀委員 先ほど伺ったことですが、講座終了後の会があるのだから何年か続いているのだと思いますが、そもそもいつからやっているのか。子育て短歌会は、資料に23年開始とあるから、今は3年目で継続中というところですかね。シルバ

一学習室に46期と書いてあるのは、年に1回としたらすごく長い歴史があることになる。要は、何年前からやっているかを伺いたい。

事務局 事務局より補足で説明させていただきます。子育て短歌入門講座は、お聞きのとおり3年目になりますので、比較的歴史の浅いといいますか、講座になります。それに対しましてシルバー学習室のほうは非常に歴史が長いと聞いておりまして、46期というのも年に1回ですので、46年間と思うのですけれども、こちらは確実なことを確認をさせていただければと思います。ただ公民館のほうからは、非常に歴史の長いものであるとは伺っております。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

堀委員 シルバー学習室のほうは「うち男性5名」と資料に書いてあるから他は女性なのだろうと分かれますが、子育て短歌講座は実際は女性だけが参加していて、要は子育て中の母親の、子育てに関わる表現の会ということになるのですか。

生島議長 ヒアリングをこれからするので、その辺りもぜひヒアリングで伺ってみたりだとかすればいいのかなとも思いますが。すみません、ちょっと話を挟んでしまって。

堀委員 事前情報として、男性は参加してないですか、今は。

生島議長 事務局お願ひいたします。

事務局 事務局で分かる範囲でお答えしますと、子育て短歌の参加者の方の属性はお一人お一人伺っているわけではございません。ただ、先ほど申しました作品集のお名前を拝見すると、恐らくはお母様の御参加なのではないかなと思います。

生島議長 荒井委員、何か言いかけたようでしたけれども、よろしいですか。

荒井委員 シルバー学習室は40年以上続いていると聞いていて、皆さん、自主グループの心遊会があって、辞めないというふうには聞いています。だからずっと継続者ということだと認識しています。

生島議長 ありがとうございます。補足もしていただきました。

今回当たりをつけたところ、偶然ながらというか、両方とも主として女性に。シルバー学習室のほうは男女どっちでもあり得たとも思うんですけれども、今回ヒアリングの対象に挙がってきた方、御紹介いただいた方が女性というようなこともありましたので、これもまた、この後、やっぱり違う視点もということであれば、また付け加えて、調査、ヒアリングしてみるのもあろうかなと思います。その辺りも、まだこれからというようなところかなと思います。

ほかに何か御意見等ありますでしょうか。御質問等。

田代委員 男女の話でいうと、私も男の料理教室、公民館でやって、それから福祉会

館でやって、中防災センターでやっていて、結構、月4回ぐらいやっているんですけど、そこは男だけのサークルで、公民館は厨房が狭いので10人くらいで、福祉会館は20人くらい男が集まって、結構料理作ったりしてるので、結構男だけのサークルというのもあるんで、それは情報で集めればいっぱいあると思います。

生島議長 ありがとうございます。

荒井委員 田代さん、質問していい？ その男の料理教室というのは自主グループなんですか。

田代委員 自主グループというの？ 男だけで集まって、公民館で月1回やっています。

荒井委員 公民館の講座なんですか。

田代委員 講座というんですかね、ああいうのは。中心になる人がいて、最初、人が集まらなかったときに来いと言われて行って、10人くらいがいっぱいなんです、あそこで今、月1回でやってますね。

堀委員 公民館主催の講座でなく自主サークルですか。

田代委員 サークルなんですか、あれは。よく分からぬ。

荒井委員 ちょっと質問していいですか。ヒアリング実施方法のところで、現在、子育て短歌入門講座もシルバー学習室もあるわけで、現役で今、講座に参加している人ではなく、自主サークルとかになった方たちに話を聞くと。

生島議長 はい。あえてそういうふうにしたところもあります。1回、まだ講座に出てというだけではなくて、さらにそこから、もっと自分たちでやっていきたいという立ち上がりがあったところのほうが、様々、ここで言うなら、先ほど堀委員からもありましたとおり、自分たちの暮らしの部分と、それから学習をつないでいくような、そういうそしやくというのがされてきているのではないか。そんなお話をぜひお伺いできればというようなこともあります、講座そのものに参加しているよりも、さらにそこから一歩進んで、自主グループとして活動が展開している方たちからお話を伺えればということで御推挙いただいたというようなことになっています。

根岸委員、お願ひいたします。

根岸委員 あえて、今回この2つの講座を選んだということは、それなりにうまくいっている講座を選んだと思いますけども、そういった成功体験を聞くことで、ほかの世代への何かアプローチをしたりとか、そういうところにもつながると思うので、非常にいいと思います。ただし、これはちょっと講座の概要を見て私が感じたことです。

まず子育て短歌のほうは、もしかしたら子育てでも、子育てに余裕がある方。

例えばお子さん1人目じゃなくて、2人目、3人目で、子育てにすごく慣れている方が参加しているのかななんてちょっと思ったんですね。もしそうだとしたら、本来の目的は、本当に忙しい、子育て忙しい人たちに、どうやってアプローチするかというほうが重要なのかなとは思いました。

それとあとシルバー学習室のほうも、最初見たときすごい違和感があつたんです。というのは、講座の目的を先に見たんですね。そうすると、退職して仕事と家の往復だったのが、地域につながりを持ち、仲間づくりや新しいことに挑戦する。これを見たら断然男性だと思いますね。ちょうどこの世代、60から80。私はこの真ん中よりちょっと若いくらいなんですが、そのくらいの人たちは、もちろん女性も働いている方もいらっしゃいましたけど、そんなに多くなかった。それとあと、女性の場合には結構PTAとか、あと、当時はママ友とは言わなかつたと思いますけれど、公園なんかでお母さん連中集まって、情報交換したり、そういうところで割と、男性に比べたら女性のほうが地域につながっていたと思うんですね。ただ意図するところは多分男性なんじゃないかなという気がして、実態とはちょっとかけ離れちゃっているような気がしました。これはあくまでも感想です。

生島議長 ありがとうございます。感想も含めていただきました。

寺澤委員、お願ひいたします。

寺澤委員 何かすみません、お休みをしてしまつて。仕事がどうしても抜けられなかつたので申し訳ないです。前回のことの中、議事録は読ませてもらつたんですけど、すっぽり抜けているので、なかなか意見も言いづらいなと実はちょっと思つてたんですけど、まずは日頃から議長も副議長も、すごくよくこちらの場をまとめてくださつていて、私はすごく感謝をしています。本当にありがとうございます。その上で、こうやっていろいろ皆さんの議論もどんどん発展していくと思っているので、何かしらのたたき台的なものをこうやって出していただけたのはすごくうれしいなと思っています。

その中で、最初にちょっと堀委員も言つていたかと思うんですけども、学習機会の捉え方がやっぱり講座、講座に今、もう限られちゃつてゐるような感じに、講座の参加イコール学習みたいになつてるのは、やっぱりちょっと私は気になるなと思っておりまして、今、根岸委員がおっしゃつてゐた子育て短歌、これは平日ですね。平日の昼間というと、お仕事していると絶対参加できないような時間帯に出ていって、今、若い世代の方々は、共働きの方もすごく多い中で言うと、やっぱりこの講座に参加できる方というのはすごく限られている。だからそこで意見を吸い上げたものが全体像を表すというのはなかなか難しいところではないかと思っていて、一番最初に、何年か前に多分、市で取つてもらつたアンケートの集計もあったと思うんですけど、あれもすごく偏りがあったと思うんです。それは多分、そういう感じで、やっぱり出席できる方、どうしても限られている中でのアンケートだったからこそその偏りだったのかなと。

それで言つうと、このヒアリングも、もちろん子育て世代で、これに参加できている方と同じような日常を送つてゐる方とかだったら代表にはなるかな。じやあ働いて、働きながら子育てをしている世代の意見はどうやって吸い上げられるのかな。なかなかやっぱりお仕事してると、講座なんかは来られない

とか。そういう中で考えたときには、もしかしたら、例えば保育園とかに行って、ママとかパパとかに趣旨を説明の上で、アンケートに答えてもらうとか、でもそうなると、保育園に預けている方はお仕事をしていて、なかなか講座に参加できない。じゃあ、そういう方にとっては学びが全くないのかという話にまた戻ってくるのかなというのも感じていて、もうそもそもの、ライフステージに応じた学習機会の充実というのをどう捉えるかが、やっぱりまたここで戻ってきてきちゃったのかなと私はちょっと感じながら今、お話を聞いていました。

なので、可能だったら、もちろんこういうヒアリングは大事だと思うんです。なのでヒアリングをする。それと、やっぱり両輪で、ちょっと違うようなスタイルを送っている方も意見を吸い上げないと、なかなか難しいなと感じます。

生島議長 ありがとうございます。

田代委員 今の話で、僕は旭通り商店街の活性化の調査を頼まれたことがあって、そのときに大学の先生を呼んできて、どんなことやればいいんですかみたいに聞いたら、まあアンケートだねみたいな感じになって、じゃあ商店街に来た人にアンケートを取って、それをまとめようかみたいに言ったら、そんな人にアンケート取ったってしようがないんだみたいに。来ない人にアンケート取れと言われて、それで、来ない人にアンケートってどうやって取るんだ？ 来ない人の対象者ってどこの人なんだみたいになって、結局ポシャッちゃったんですけど、これもそうで、なかなか参加できない人のアンケートというのは取りづらいんですけど、それも必要かなとは思いますね。

寺澤委員 講座に参加できない、イコール学習してないというふうになるのかどうかという話に結局なってしまうんだと思うんです。

田代委員 その人に実際に聞いてみて、どういうことで、もしかしたら違う形で学習している可能性もあるんですね。

寺澤委員 なので、そのアンケートを取るにしても、何かどこかで……。子育てで考えるからあれなんだと思うんですけど、子供だと思うと、例えば生まれた子供が保育園なり幼稚園なり行くまでの間、じゃあ何の学習もしていないかといったら、別にそれは日常の中でいっぱい学んできているから言葉も覚えていくし、いろいろ認識もするようになるし、それがその子たちは、塾なり習い事をしていかなかったら、一切じゃあ学ばずに育っているのかという話なんだと思うんです。だから今の大人だって同じで、じゃあ何か講座に行ってないから学んでないのかという、その辺の学びの、結局質というか、定義というか、その辺りをどういうふうにお伝えするかによって、アンケートの結果というのもだから変わってくると思うんです。あなたは日々の学習を何かされていますかみたいなざっくりした聞き方だと、多分、えっ、英会話とかも習っていないし、どこの講座にも行ってないし、私は学んでませんみたいな感じに多分なっちゃうんだと思うんですけど、学びというのを、こうこう、こういう意味で捉えたときに、あなたは生活の中で何か自分は学んでいると思いますかみたいな問い合わせにしたら、多分、子育てしていたら誰もが、もう日々学びです、毎日発見がありますみたいな感じになるでしょうし、多分それも聞き方によって大分変わって

くる。

田代委員 そうです、聞き方ですよね。だからアンケートだったらそういうのも見えてこないんで、やっぱりヒアリングで、相対で話をするとき、そういうのが見えてくるんだろうなと思います。

生島議長 次の課題というか、並行した課題という形で、今、ここに届かない人たち、講座に参加しない人たち、でも学びの多様な側面というのもしっかりと捉えていくことも必要なんじゃないかというような御意見、ありがとうございました。

前々回だったか、インフォーマルな学習とノンフォーマルな学習というような形で整理をさせていただいたところもあったわけですけれども、これもだから、答申にどうつなげていくかというような学習像ですね。学習をどこまでどう捉えるか。その部分も少し改めて、この後また追い迫る議論していくことも必要かなと思います。ありがとうございます。

ほかに御意見いかがでしょうか。

横山委員 いいですか。

生島議長 横山委員、お願ひいたします。

横山委員 私はこれ多分、最初から本当に気になっている、自分がライフステージに応じた学習機会の充実というので気になっていることなんですけど、ここの質問内容のところです。裏面の。どのようなきっかけで講座を知りましたかという質問があるんですけど、私はそれよりも、どうして行きたいと思ったんですかということをお聞きしたいんです。ここは公民館だより、今日私、早く来て読んでいたんですけど、そのときに、「公民館と私」というところに、何となく出かけてみた講座も思いのほか心にしみて一歩踏み出すことの大切さに気づかされますと書いてあったんですね。だから多分この人は、こういうことをやりたいと思って行ったわけじゃなくて、たまたま、あっ、ちょっといいんじゃないと思って行ったら、すごくよかったです。こういうきっかけというか、そういうのを、知るというよりも、どうして行きたいと思ってしまったかということを知ることで、そういうようなことを思うような感じに持つていけば、もっとそういった講座とかにも門扉が広がるというか、そういうこともできるんじゃないかなということを思いました。

生島議長 ありがとうございました。具体的な質問内容についても含めて、どんなふうに、どうして参加しようと思ったのか、どうして足が向いていったのか。

横山委員 そう、そっちが。知ることは読めば分かるじゃないですか。ただ、読んだときに、何で、どこにそれがひつかかった、どうしてこの短歌に引っかかったのか、自分が行こうと思ったのかということを知ると、そういうことを思えるようにこっちがアピールすると、一歩が出ない人が出やすくなるのかなと、充実というか、一歩前に出ることができるんじゃないかなと思いました。

生島議長 ありがとうございます。

今のような、ヒアリングしていくことを少し具体的に考えていくに当たって、もっとこういうような聞き方をしてみたらどうかというようなことも含めて御意見いただければと思います。また、先ほど来お話のあった、もう少しこういうふうな、今回のヒアリングもしつつ、こういった視点も必要なんじゃないかという、これはまた次のポイントにもなろうかと思いますので、ぜひ大切にしてきたいとも思います。どちらでも記録はきちんと取って忘れないようにしていきますので、御意見いただければと思います。

堀委員、お願ひいたします。

堀委員 2つの講座だけでは分からぬ層や部分があるだろうという話は最初にあり、だからそれは次に必ずやろう、まずこの2つをやるという流れで、ではその質問内容は?というようなことだと思います。

でも2つの講座へのヒアリングを有効なものにするにはどうなのかということで言うと、提案の12月17日と19日で、ヒアリングに応じてくれる方がこのくらいの数では、何かもう一工夫できないか。協力してくれる人数やタイプが、もう少し広がるような工夫はできないかという感じはちょっとします。応じてくれる方のヒアリングだけでは分からぬ部分は当然あるだろう、と。努力して調整していただいた結果でしょうが、応じてくれる方が多くないのでどうしたらいいだろうかという感じです。提案の日に、参加できる委員は参加してくださいという形でいいのだろうか。

田代委員 今の話でいくと、何か選ばれた人というイメージなんですよね、これは。選ばれた人じやなくて、普通に参加している人に話聞きたいなみたいなところはありますよね。

生島議長 今、本当にヒアリングの対象が、こういう方々でいいのかというようなお話をしたけれども、副議長、何か御意見ありますか。

大森委員 今日はヒアリングの進め方について、議長と事務局と合わせて御提案があったので、普通に、自由に御意見をいただくということだと思うんですね。ですからもっと出していただくといいんじゃないかと思って伺っています。

生島議長 ありがとうございます。

荒井委員 これは先ほどもあったんですけど、まずこのヒアリングがあるじゃないですか。その後に、もし人数、いろいろな人たちの意見が欲しいのであれば、聞いたようなことを、先ほど言ったアンケートのような形で、まずはここの方々にしてもらうというのはどうでしょう。例えば心遊会は、160名いらっしゃるじやないですか。そういう方にアンケートを書いてもらうような協力というのはお願いできないですか。ヒアリングして、その結果を得て、このまま、例えば四、五名、選ばれた人だけという形でやるのだったら、このグループに限ってしまうんですけれども、それ以外の関わっている人たちが、実際に自分はどう思っているのかをアンケート形式のような形でお渡しして、返事をもらうのも1つの手かなとは思ったり。

そうすると人数も増えてくるから、それに対するいろいろな思いが、多分、同じようなことをやっている方なので、同じような結果は来るとは思うんですけども、また同じような結果が来たことが、この人たちはこういう気持ちでやっているんだとか、これが生涯学習につながっているんだというのが、さらに深みを増すというか。四、五人でまずはヒアリングして、そのときの反応が分かる、それは1対1の反応が分かる。こういうのはちょっと嫌なのかなとか、話を聞いたときに、その後に、同じようなことを文章化して、ほかの方々にも聞いてみる。そうすると、例えば心遊会の人たちだったら、その人たちがどういう思いで実際に関わっているのかが、1人に聞くよりも、160の方からのアンケート結果を受けてまとめたほうが、もっと幅とか深さがあるものになるんじゃないかなと思うんですけど。

堀委員 この2つの調査対象をさらに深めるにはそういうことだと思いますが、全体の進行の中で、取りあえずセレクトした2つの対象をどこまで引っ張って突っ込むのかという見通しや判断のこともあると思います。

すごく対比的なことを言えば、例えば、田代委員から出された男の料理教室に集まる人たちにヒアリングしたらどうかということもあるではないか。表現活動もしないし成果物も残さないが、それはすごく大事な活動だと思う。2つのヒアリングの次には、できれば対比的な活動を取り上げたらどうだろう。そんなこともあるし、いろいろあると思う。

そんな中で、この2つをどこまで引っ張って深めるか、1回やってから調査項目を文章で立てて、講座の他の参加者の方に向けて、できるだけ協力してくださいと行くのか。アンケートにする文章の案を検討してとなっているが、この2つをどこまで深めるのかということもある気がする。

田代委員 ヒアリングをやる中で、やっぱりどういうアンケート項目にしていくかとか、今後どういうヒアリングをしていくかとか、それは相対でいろいろ話している中で大体分かってくると思うんですね。1回目は、ちょっとあそこ失敗したなとか、あんなこと聞いても何の反応もなかったけど、違うことを向こうから言われて、それを質問にすればいいんだとか、結構やっぱり、話しているといろいろ出てくるので、1回やってみないと、なかなかそういうものが出てこないというのは思います。

生島議長 ぜひ皆さん方、これに関しては少し、ヒアリングをどうする、また本格的に情報を集めていくといったときに共有をしておいたほうがいいことも多いかと思いますので、御意見いただければと思いますが。内田委員、ここまで議論等、いかがでしょうか。

内田委員 ひとまずこの2つのグループの方にお話を伺って、どういう思いで参加したのかを具体的に深く聞いてみて、それは実際は生の声であって、それを伺うことで、きっとここに参加した方は、割と生涯学習に対してうまくいっている方をここで聞き取ると思うんですね。うまくいっている方のパターンはこういう形なんだろうと。一方で、そこに入ってこられない方、成功している方の、ここだったら、うまくそこに入り込めない方も、入りにくい方の入ってくる機会だとか、何かそういうきっかけ、こういうきっかけを広げていったら、何か

そこに入ってこられない方が入りやすくなるような内容が聞き取れるんじゃないのかなと思いますので、ひとまずこういった形でお話を伺うのはいいんじゃないのかなと思って伺っていました。

生島議長 ありがとうございます。まずはこれ、手がかりをちょっとつかんでみようということで御賛同いただいたと受け止めさせていただきます。

内田委員 はい。

生島議長 松塚委員、いかがでしょうか。ここまで議論を踏まえてですけれども。

松塚委員 ヒアリングにおいて、必ずしも各講座、各学習機会に個別特定の質問だとか、ヒアリングでなければいけないということでもないと思うんです。例えば学習機会だとか、学習機会の充実ということで、ここの委員でさえ統一の見解に達していないということは、市民の方々全体ではなお一層共通の考えに到達していないと思います。例えば、何をもって学習の機会、そして学習機会の充実と思えるのか、思うかもしれないのか、個々の方々が何をもって学習と捉え、自分がしたい学習と捉えているのか、その辺りを特定の講座や学びの機会から一歩離れて聞いてみることができれば、教えていただけることができれば。講座だとかに参加しなくとも、私は日々学習していますと考えている方も当然いらっしゃるでしょうし、その場合、どのような経験をもってそのように感じいらっしゃるのかというようなことを知りたいというか、勉強させていただきたいと思います。

生島議長 それぞれの人の学習機会、または学習の充実とはどういうことなんだと。

松塚委員 そうですね。当初から、第1回目から、学習の機会は何なんだということは必ずしもきっちりと定義されているわけではなくて、そうしますとやはり、できるだけ多くの声を聞きたいと。恐らくこれは、かなりやり取りをしないと出てこないんじゃないかなと思うんです。アンケートはとても大切で、アンケートとヒアリングを同時にやっていくことはすごく大切だと思います。ただ、あなたにとって何をもって学習の機会とするのかという問いには、文章で聞いても答えが返ってくるかどうか難しいかもしれない。一定程度の信頼関係がヒアリングの中で築かれていったときに、いろいろな声を聞けるという感じがします。ヒアリングがそういった、それこそ機会になればいいと思います。

生島議長 ありがとうございます。ヒアリングでしか聞けてこないような私的な部分というのが、今回とっかかりの部分でできたらいいなどか、またこの後、ここから見えてくる次の課題も、そういった視点を持っていくことも大事なんじゃないかということで御指摘いただいたと思っております。ありがとうございます。

そういう意味では、人数のお話というのも先ほど堀委員からもあったわけですけれども、実は子育て短歌入門の方々、座談会方式で四、五人くらい集まってくれるようで、話を聞いていくと1時間じゃきっと足りないだろうなということがあって、だからこそ、あんまり細かい質問項目というよりは、少し大

きな質問で、自由にそこの中でお話しをいただくようなことがいいかなということも考えていたところではありました。

いかがでしょうか。冒頭、荒井委員から、この世代でいいのかなというお話もあったわけですけれども、今の議論を踏まえていかがでしょう、荒井委員。

荒井委員 代表的な自主グループとして、まず手始めに聞いてみるとことから始めてはいいのではないかというのは皆さんおっしゃっていたので、やってみていいんだとは思うんですけど、実際に日にちを指定して、四、五人とかに誰が質問して、この委員の中から何名参加するのか。何か、ちゃんと聞き取れるのかなとか、あまり全員行ったら変な感じかなとか、ちょっと不安が。シルバー学習室の方は1名に対して、何名くらいで参加するのがいいのかなとか、具体的な絵が自分ではまだ描けないんですけど。

生島議長 分かりました。私実は、ピンポイントで日程も、先方の御都合のこともあるので、日程があります。今荒井委員がお話しされたことは、私も一番不安に思っているところで、うまくここでかみ合わなければ、別のまた日程を組まなきやいけないというようなこともあるうかと思います。ただ、これまでの前期などでは、関係機関とかの職員に来ていただいていたので、この場に来ていただいて、全員でヒアリングすることが可能でしたけれども、今回は、実際に皆さんたち、本当に忙しい生活の中で、学習活動に向かわれている方々が時間を割いてくださる。その御都合に合わせて設定させていただいているので、全員がここには来れないということも踏まえて、だからこそ、聞いてきたことをここで皆さんと共有しながら、議論の情報にしていくということかなと思います。

そういう中で、じゃあちょっと具体的な今の荒井委員と、私も次のステップとして話をていきたいところですけれども、ここに17日午後、それから19日というのが日程で、先方から調整いただいている時間帯です。全員は難しいとは思うんですけども、ただ、シルバー学習室の方も、お1人だけれども、公民館の方も同席いただきお話を聞いていただけるということを前提においていただいているので、ある程度の人数は。逆に何人来ていただけるだろうか、それこそ、それぞれのお仕事がある時間帯でもありますので、何人来ていただけるだろうかというようなことも私は不安にも思っているところです。いかがでしょうか、皆さん方も御自身の日程を見ていただいて、御参加いただけそうかというようなところを確認いただければと思っております。

堀委員 シルバー学習室のヒアリングは何時でしょうね。

生島議長 時間帯、決まっていないんですね。むしろこっちが。事務局お願いします。

事務局 シルバー学習室はここにあります12月17日、水曜日の午後というところまでしかお伺いしておりませんで、逆に午後の時間帯の中でお時間はある程度調整していただけると伺っております。

堀委員 夜になると社会教育委員の会がある日ですね。

生島議長 そうですね。7時からはこれが。

堀委員 夕方になるべく近い時間であれば、両方参加するのはそう難しくないという場合もあるでしょうね。1回目でもあり、まだそんなにヒアリングの手法や、聞きたいことが具体的に決まっているわけでもない。それを確立していくトライアルみたいな感じからすると、参加できた人とできなかつた人があとで共通の話ができるかは、結構課題があると思う。

しかし流れから言えば、こうやっていくしか仕方がないという形に入りつつある。参加できる委員に参加してもらい、それをあとで、どれだけほかの委員に共有できるかに課題があるが、共有を図りながら、次にはどんなヒアリングするかを検討していく。ここまで用意してもらったのだからやるしかないというか、そういうことかと。

生島議長 いかがでしょう。今お話しあったとおり、17日から検討していきたいと思います。17日午後、具体的な時間帯というのが設定はないんですが、午後、どこかの時間帯でも来ていただけそうだという方はいらっしゃいますでしょうか。挙手をお願いできればと思います。

田代委員 17なら出ます。

生島議長 ありがとうございます。今、田代委員、荒井委員、堀委員から挙手いただきましたけれども、ここの時間帯で、御都合のよくない時間帯があれば教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。午後は。堀委員いかがでしょう。

堀委員 夜はこれがある日だから、都合つけます。

生島議長 午後と言われているので、お昼過ぎから、多分この会議の前くらいまであるかとも思うんです。なので、もしその間に御都合がよくない時間帯があれば、先方にお伝えして調整することになろうかと思いますが、いかがでしょう。

田代委員。

田代委員 私は大丈夫です。

生島議長 大丈夫ですか。

堀委員 議長、副議長たちはどうですか？

生島議長 私はここは調整いたしますので。副議長は？

大森委員 公民館でやるんですよね。

生島議長 はい。

大森委員 そうしましたら、堀委員はどこか都合の悪い時間帯は。

堀委員 何時でも来ます。夜のことがあるので、何時でも国立に来てしまします。

生島議長 よろしいですか。分かりました。そうしましたら、ここは先方の御都合も合わせて調整させていただいて、今お話があった堀委員、荒井委員、田代委員、そして議長、副議長の調整をしていきたいと思います。ありがとうございますか。

それから次、19日、金曜日です。こちらは本当に、学習グループの活動が終わった直後の時間帯を行委いただいているということなんすけれども、12時までが活動の時間帯だというようなことですので、1時間程度、お時間を頂戴できることになっています。こちらはいかがでしょうか。

大森委員 議長いいですか。この進め方でよいと思うんですけど、今日こういった形で提案をしていただいて、多分議論としては、提案の2つの対象からヒアリングをするとき、何をどう聞いていくべきかということで御意見を出していただきましたし、それから提案の2つの対象からだけでは分からないことがあるので、それはどうしていこうかという、この提案を超えるところについても御意見をいただいて、あと1つ、今ちょっと集中しているところだと思うんですけれども、まずこの2つのヒアリングについて、昨年度のように、こちらに来ていただくのではなくて、こちらから出向く形、だから全員ではない形で聞くという御提案があったと思うので、それでよいかどうかをちょっと。少し議論があったほうがいいのかなと。

生島議長 分かりました。すみません、ありがとうございます。

今、副議長にまとめていただきましたとおり、こちらに来ていただくということではなく、一部の参加者になってしまふかもしれませんけれども、先方の御都合に合わせて調整をさせていただく、そして行った方々に、こここの会議の場でも共有していただき、それを基に、皆さんで、分からないことはお互いに聞き合って、議論の情報にしていくというようなことで進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。大事なポイント、ありがとうございました。

そうしましたら今度、19日の話になります。19日いかがでしょうか。

横山委員 大丈夫です。

生島議長 横山委員、ありがとうございます。

横山委員 これはどこ？ 公民館に出向くということですか。

生島議長 はい。公民館で行われているということですので、公民館でということだそうです。ほかには、この日は難しそうですか。いらっしゃらなさそうですか。

事務局 こちらも調整した上で御連絡させていただいてよろしいでしょうか。

生島議長 はい。それもあり得るかと思います。

事務局 その場合は事務局に。

生島議長 事務局に。ありがとうございます。そうですね、今日すぐに結論出ない場合もあるうかと思います。そうしましたら、19日の時間帯も、今のを基に、早めに決めさせていただいて、もう一回投げていただくと、その時間帯ならという方もいらっしゃるかもしれませんので。ありがとうございます。一応目安としては、今いただいた、19日は横山委員に御同席いただけるということで、さらに？

寺澤委員 これはでも、19日は何時から。

生島議長 それは講座のほうで、こちらは自主グループ。講座を終えての自主グループのほうです。

寺澤委員 自主グループ、なるほど。

生島議長 そうしましたら、今、寺澤委員からお話しあったとおり、調整してみて、合流できそうであれば参加いただくことも含めて、継続的に情報共有もしていきたいと思います。ありがとうございます。

田代委員 当日のヒアリング事項とか、そういうのはもう事務局と議長でまとめちゃっていることですか、それとも我々、一緒に出る人にも何かもらえるというか、くれて、何か役割があるということなんですか。

生島議長 ありがとうございます。まず先方には、先ほど資料2にありました裏面で、質問内容、こんなことをお伺いしたいと思っていますというようなことを事前にお知らせしておくというふうにしたいと思います。先ほど横山委員からもありましたけど、どんなきっかけで、知りましたかだけじゃなくて、それよりもむしろ、どうして参加しようと思いましたか、足が向いてきましたかというようなことですとか、具体的にはそうですね、参加に当たっての思いをお聞かせくださいとか、実際の講座に参加してみて、これは講座というだけじゃないですね、このあと、自主グループの活動になっているわけですので、学習活動に参加してみて、例えば、御自身の子育てへの向き合い方に変化はありましたかというようなこととか、学習活動が今の子育てや活動にどんなふうに生きていますか。大枠こんなことをお伺いしますと言うことを事前に先方にはお知らせしておくということです。

当日はざっくりばらんに、むしろお話し、こういうようなことをこちらとしては伺いたいんだということをお示ししながら、先方もいろいろお話ししてください。むしろそっちのほうが、今の、今日のお話もあったとおり、それぞれの学習者が、どんなふうに学習とか学習機会という形で捉えているか。それが生で聞ける機会かなと思いますので、あまり枠組みをつくらずにお話を振っていくというようなことがよいかなと思います。

全体的な司会というか、振りは私のほうでさせていただきますけれども、ぜひ御参加いただいた皆さんも、気になることがあれば質問していただいたらしください。

て、こちらの会議のほうにも持ってきていただくとしたらよいのではないかというのがアイデアです。

いかがでしょう、田代委員。

田代委員 このシルバーのほうは公民館の方が同席するということなんんですけど、公民館の方というのは、その担当の方ということですか。

生島議長 はい。事務局お願ひします。

事務局 そうですね。こちらの企画担当の方が同席するということで伺っております。

田代委員 じゃあその人にも、聞きたいことがあれば聞いてもいいということですね。

生島議長 もちろん、それは。はい。

田代委員 はい。

生島議長 ありがとうございます。

今の件に関しまして、田代委員だけではなく、ほかにも、もっとこういうようなことも事前に振っておいたほうがいいんじゃないというようなこともあるれば、入れ込みたいと思いますし、こんな進め方してみたらどうかしらというようなことも、今のうちに御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。前期から継続の委員の方……。

事務局 今、議長から皆さんに振りがあったとおりなんですけれども、当日出れない方もいらっしゃいますし、あくまでこの質問内容、こんなような案なのかなということでお示しさせていただいたものになりますので、特に出られない方、あと、当日のニュアンスに応じて聞き方が変わってくる部分はあるかなと思うんですけれども、特に出られない方は、この場で積極的に御意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願ひいたします。

生島議長 こんなこと聞いてきてよというようなこともあるかもしれませんけれども。

寺澤委員、お願ひします。

寺澤委員 せっかくヒアリングできるなら、先ほど松塚委員が言っていたとおり、学習の捉え方というか、そういうのもちょっと聞けるといいのかなと思うんですけど。

生島議長 ありがとうございます。どう聞くかという、文言が、投げかけの文言が難しいところではありますが、でも大事なポイントにしていきたいと思います。話の流れもきっとあろうかと思いますので。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

松塚委員 ヒアリングで得られた情報、いろいろ教えていただいたことが、アンケー

トをやるときのヒントになるというようなことをおっしゃっていたと思うので、その辺り、探索的にお伺いしながらも、いろいろな方に聞くときに、一定のアンケートにするとき、質問立てに役立つ、結果的にそうなるというようなのはあるべき姿だとは思うんです。それができれば、横山委員がおっしゃったようなことに近づいていけるのかなという感じがします。

生島議長 アンケートをやる前提としてということ。

松塚委員 前提と言っていいのかどうか。結果としてアンケートのときに、こういったことを聞くといいのではないかというような、そういう考えに至るという前提でしょうか。

横山委員 ヒアリングができるといいということ。

松塚委員 そうですね。ただ1回でできなくても、例えばヒアリングの後に、こんなアンケートができそうだとなり、またヒアリングという機会があれば、アンケートとの往来でもって、アンケートでこういうことが分かればいいなというようなことが見えてくるのかもしれません。

生島議長 ありがとうございます。今の御意見、アンケートを仮に作っていくとしたら、その中の、ある意味、枠組みというか、聞き方であるとか、聞く内容の参考になるような情報を持ってこれればいいねというような。ただ、今お話をいただいたことは、アンケートに執着していくに限らず、答申のことにもつながってくるかなとは思いますので、ぜひそういう。ただ、1回でなかなか難しいかとも思います。おっしゃったとおり、少しそういう場も慣れていくということ、我々のほうも必要かとも思いますので、探索的にというところかなと思います。

堀委員、お願いします。

堀委員 スケジュール管理からすると、12月に2回、2つの対象でヒアリングをさせていただき、そこに出られる委員は限られるが、1月の会議の日がその総括の場になる。ヒアリングでどんなことが聞けたか、それを基にしたら、次はどう対応できるか。アンケートを取るならどんな文章だろうかとか、やはりヒアリングじゃないと駄目だとか。この2つの対象は面白いからもっと突っ込もうか、それとも全然違う対象や視点のところにヒアリングというか調査しようかとか。そのへんの総括が1月の会議の話題になる。1回で終わるとは思わないですが、そういうことになるのかな。

生島議長 ありがとうございます。堀委員の御提案、とても大事な進め方だと思いますので、ぜひそういう風に組んでいきたいと思います。ありがとうございます。

内田委員 すみません。

生島議長 内田委員、お願いいいたします。

内田委員 質問の内容、こちらに書いてある質問4項目と似ているのかなとも思うんですけれども、講師の先生から学んだこと以外に、参加を通して学んだことや、大切に思ったことはどんなことがありますかというのを聞いていただけたとあります。

生島議長 ありがとうございます。

堀委員 内田委員から、すごく具体性のある提案をしていただきました。講師から学ぶことと、もう一つ。やはりこれは集団活動だと思う。集団の中で、サークル的な相互の共同性の中で学ぶ、知識内容だけではなくて。その両方をお話しされていたので、すごく大事なことじゃないかと感じました。

生島議長 ありがとうございます。堀委員からも後押しがあったとおり、私も非常に大事な質問になるだろうし、先ほどの、あなたにとって学習とはというようなのを、すごくかみ砕いて、お聞きしやすい形の質問になったかなとは思いましたので、ぜひ取り入れさせていただければと思います。具体的な御提案ありがとうございます。

よろしいでしょうか。皆さんいかがでしょうか。

大森委員 いいですか。

生島議長 はい。大森委員、ありがとうございます。

大森委員 委員の皆様から出していただいたことの確認なんんですけど、質問の内容案としては、1つ目はこのままにして、2つ目については、書きぶりを、どうして参加したいと思ったのかお聞かせくださいに直して、3つ目の、講座よりも、これは学習にして幅を広げて、4つ目もそうですね。5つ目に今の御意見を入れると、ちょっとバランスもよくなる印象を持ちました。

生島議長 ありがとうございました。
いかがでしょうか、今の御意見。

田代委員 ヒアリングのやり方なんですけど、要は質問が分かっていると、やっぱりそれについて考えたことは話してくれるんですけど、なかなか、その裏の思っていることを話してくれるという人が、質問が文字になっちゃうと、なかなかいないんですね。その辺は、要はサークルでもいいんですけど、参加したことを、意識して参加した人というのは言葉でしゃべれるんですけど、無意識に参加したという人が結構いて、そうすると、何で参加したか自分でもよく分からないという人がいるので、そういう人は、話をしながら、聞き出すというんじやなくて、それこそ世間話みたいな話し方をしながら聞いていると、ああ、こういうことでこの人参加したんだなみたいのがだんだん分かってくるので、それはアンケートと全然違うやり方で、要は相手の人の考え方とか思いが分かってくるというので、その辺は質問をするときに、そういうのがあれば、それを引き出せるような質問にしてもらいたいと思います。

生島議長 ぜひ、田代委員もいらっしゃいますので御協力ください。よろしくお願ひします。

今の、その前にありました大森副議長からの御提案、端的にまとめていただきました。具体的な修正もお示しいただきましたがよろしいでしょうか。御賛同いただけますでしょうか。

よろしそうですので、ありがとうございます。今、田代委員からもお話しさりましたとおり、一応、ただ集まってくださいというわけにもいかないので、こんなことをお伺いしたいと思うということで、ざっくりと今の5つの点、お示しはしておく。ただ、これに縛られずに、ぜひこれに関連する、またはこれに引っ張られた、座談会形式にもなっていますので、ぜひお話し、どんどんと聞いていただければというような、そういう場になればいいかなと思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。当日の流れであるとか、内容について、ヒアリングの状況について今確認をしておりましたが、この件についてはよろしそうでしょうか。

そしてまた、先ほど来、堀委員からもありましたとおり、まずやってみて、それで、ここ面白そうだねとか、これはヒアリングじゃなきや聞けないねとか、または、もっとこういうほうに聞いていったらいいんじゃないか、そういった今回の2つから見えてきたこと、2つでは見えないこと、そういったことをまたもんで、次のステップにつなげていき、答申に近づけていくというような、そういう算段を取りたいと思います。ですので、ヒアリングに御参加いただければ、そうでない方も、そういうようなイメージを持って御参加いただければと思います。

いかがでしょう、進め方につきましてもよろしそうでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。御協力いただきましてありがとうございます。そうしましたら、今日の次第2、ヒアリングについての内容はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。

それでは次第3、事務局からの連絡事項に入っていきたいと思います。事務局、お願ひいたします。

事務局 事務局です。事務局からの連絡事項に入ります。

今お話しいただきましたヒアリングについてですけれども、こちらは御案内をもう一度させていただきます。①の子育て短歌入門講座ですが、こちらは12月19日、金曜日となっております。お時間が12時から1時間程度ということですので、参加をされる委員の方は、お時間の調整をお願いいたします。

12月19日ですけれども、その前に、12月17日、水曜日に定例会がありますので、そちらでもう一度、事前に詳細ですかアナウンスはさせていただきたいなとは、事務局では思っておりますので、特にメール等での連絡は、それまではないと思います。

次のシルバー学習室についてです。12月17日、水曜日、今は午後となっておりますので、こちらは公民館に連絡を取りまして、時間を調整させていただきますので、また具体的なお時間が決まりましたら、メールで参加される田代委員、堀委員、荒井委員、議長、副議長にメールを送らせていただきます。

子育て短歌とシルバー学習室、2つ共通することなんですけれども、当日、

質問内容についてですが、こちら、事前にもちろん、5個の質問をヒアリングの参加される対象者の方に事前にお知らせするということと、あと当日、皆様にも質問内容を書いた用紙をお配りしますので、そこにヒアリングしながらメモを取っていただけるといいかなと思っております。そちらの紙を用意しておきます。ヒアリングについての御連絡は以上となります。

続きまして……。

生島議長 ごめんなさい、すみません、今の件なんですけど、私の聞き間違えじゃなければいいんですが、日程調整、時間調整が済みましたら、今の来れると言った委員だけでなく、皆さんに共有していいいただけますか。場合によって、その時間なら大丈夫という方も、先ほど、寺澤委員もありましたので。

事務局 両方とも全体の委員の皆さんにメールでお流ししますので、お願ひいたします。

生島議長 お願いします。

事務局 続きまして資料5を御覧ください。こちらは令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会開催のお知らせについてです。こちらは先月の10月13日、委員の皆様にメールで送らせていただいたものと同様のものとなっております。今回、再度御連絡をさせていただきます。日時は12月13日、土曜日、午後1時半から午後4時15分までとなっております。場所は小金井宮地楽器ホール3階の大ホールとなっております。

裏面を見ていただきますと、会場までの地図となっておりますので、もし御参加を希望される方がいましたら、あしたまでに事務局までメールで御連絡いただけますようお願ひいたします。

続きまして、次回の定例会についてです。次回の定例会は第8回目となりまして、12月17日、水曜日、午後7時からとなっております。場所は国立市役所の第1・第2会議室で行いますのでよろしくお願ひいたします。

以上となります。

生島議長 ありがとうございます。

今、事務局から御案内ありましたとおり、12月13日に都市社連協の全大会があるということで、都市社連協は非常に大きな組織ですので、5ブロックに分かれているわけです。国立市は第2ブロックに位置づいているわけですが、それぞれのブロックでどういうことをやってきたかというようなことを、この場では共有されることになっています。続いて研修会もありますので、御参加いただける方は、ぜひ御参加いただければと思います。残念ながら、私は毎年ここ、そうなんですけれども、入試が重なってしまっていて、地方に今年は飛ばされることになっているんですけども、なので、御参加いただいた方には1月の会議でぜひ共有していただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

あしたまでに御連絡いただくということで、今日もし決まっていれば、口頭でお伝えするのでも大丈夫ですか。

事務局 大丈夫です。

生島議長 よろしくお願ひいたします。

ありがとうございます。そのほかは何か御質問、または皆さん方から何か情報がありましたら、お出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

なければ、本日予定をしておりました案件は全て終わりました。次回は12月17日、水曜日午後7時から、国立市役所の第1・第2会議室、いつものところになります。

これをもちまして、本日の会議を終了いたします。どうもお疲れさまでございました。

―― 了 ――